
とある学園の日常生活

セラフィム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある学園の日常生活

【Nコード】

N5488S

【作者名】

セラフィム

【あらすじ】

もし学園都市の能力者や魔術師が同じ学校にいたら、という妄想のもとに描かれる、ほのぼのストーリー。
上条当麻、御坂美琴、一方通行をはじめとする個性的なキャラ達の、平和な日常が今日も始まる

入学案内（前書き）

この小説は、100%作者の妄想で描かれています。キャラ崩壊な
どがかなりあるかもしれませんが、よかつたらずぜひご覧ください。

入学案内

とある高校 - 入学案内 -

校訓 「友情 勤勉 努力」

教師

校長：アレイスター・クロウリー

理事長：エイワス

教頭：後方のアックア

生徒会顧問：木原数多

生徒指導：後方のアックア

国語総合教師：ローラ・スチュアート

数学教師：博士

英語教師：オルソラ・アキナス

物理教師：木原数多

化学教師：月詠小萌

社会教師：ビージョ・ブゾーニ

体育教師：後方のアックア、黄泉川愛穂

音楽教師：インデックス

家庭科教師：左方のテッラ

保健教師・保健室：冥土返し

用務員：闇咲逢魔、オリアナ・トムソン

科学分野講師：芳川桔梗、木山春生
カウンセラー：前方のヴェント

在籍生徒

生徒会

会長：一方通行

副会長：垣根帝督

書記：麦野沈利

雑用：浜面仕上

委員会

風紀委員

委員長：固法美偉

初春飾利

白井黒子

整備委員

委員長：湾内絹保

泡浮万彬

応援団

団長：削板軍霸

上条当麻

浜面仕上

1年生

担任：黄泉川愛穂

学級委員：初春飾利

佐天涙子

白井黒子

ステイルⅡ マグナス

土御門舞夏

フレミアⅡセイヴェルン

御坂妹

絹旗最愛

アンジエレネ

ルチア

アニエーゼ

泡浮万彬

湾内絹保

2年生

Aクラス

担任：木原数多

学級委員：風斬氷華

一方通行

垣根帝督

御坂美琴

麦野沈利

上条当麻

結標淡希

浜面仕上

Bクラス

担任：月詠小萌

学級委員：吹寄制理

海原光貴

青髪ピアス

土御門元春

滝壺理后

姫神秋沙

フレンダ「セイヴェルン

削板軍覇

五和

建宮斎字

3年生

担任：ローラ「スチユアート

学級委員：神裂火織

固法美偉

シェリー「クロムウエル

騎士団長

アウレオルス「イザード

番外個体

部活動

剣道部

顧問：後方のアツクア

部長：神裂火織

五和

建宮斎字

騎士団長

写真部

顧問：オリアナ「トムソン

部長：海原光貴

2 - A 某生徒からの苦情の申し立てにより、廃部審議中

弓道部

顧問：闇咲逢魔

部員募集中

情報処理部

顧問：木山春生

部長：初春飾利

御坂妹、御坂美琴、番外個体は姉妹という設定

主要キャラがみんな同じ学校だったら、という妄想を書いていきま
す。

ギャグ10割で、シリアスパートを書くつもりはありません。

書き方としては、1つの出来事を1人の視点から書いていくという
書き方です。

サブタイトルが変わることに視点も変わるので、ご注意ください。

入学案内（後書き）

設定、もとい入学案内でした。

こんな力オスなメンバーの、楽しい楽しい学校生活が始まります。

この入学案内を見て、面白そうな学校だ、と思った方は、ぜひご入学してください。

卒業まで付き合っていただけると嬉しいです。

始業式（前書き）

新学期が始まり、上条たちは晴れて高校2年生です。

始業式

- 始業式 -

4月。

この時期は、よく「始まりの季節」と称される。

特に、学校等ではこの言葉の意味がよく分かるだろう。

3月で学年が終わり、4月から新たな学年が始まる。

新しいスタートの季節だ。

この高校もその例に漏れることなく、新しいスタートを迎えていた。

司会「校長先生の挨拶」

集会の恒例行事、校長先生の挨拶だ。

これは、校長先生の話が異常に長い割に内容がほとんど詰まっていないというのが相場だ。

しかし、この高校は例外である。

アレクスター「今年度も、楽しい楽しいショータイムの始まりだ」

校長先生の挨拶、所要時間7秒。

非常に思わせぶりの言葉だが、ただの挨拶である。

特に意味はない。

そういう人物なのだ、この学校の校長は。

司会「生徒会長の挨拶」

その言葉を受けて、ステージの袖からやる気のなさそうな生徒が出てきた。

その生徒の髪は雪のように白く、肌も同じく白い。

それゆえに、彼の特徴的な赤い瞳が映える。

儀式だから制服もしっかり着ており、なかなかの美男子であると言える。

ステージに立ち、軽く礼をすると、彼は口を開いた。

一方通行「どオも、生徒会長の一方通行です」

一方通行「えエと・・・まア、その、勉強頑張ってください。以上オ」

今まで、これほど棒読みで適当な挨拶をする生徒会長がいただろうか。

清々しいほど適当な挨拶を繰り広げた生徒会長は、ステージの袖へと消えていった。

こうして、始業式は閉式する。

いよいよ、それぞれにとっての新学期がスタートする。

始業式（後書き）

校長も生徒会長も適当な学校です。
これから、どんな生活が始まるんでしょうか。

クラス分け（前書き）

さて、クラス分けです。

一体、どのようなクラスができていくのでしょうか。

え？入学案内に書いてあった？
なんのことやら

クラス分け

・クラス分け（上条当麻）・

わたくしこと上条当麻は、この高校の2年生である。

頭が悪いから進級できるかどうか心配だったわけだが、なんとか単位は取れていた。

というわけで、クラス分けの結果、2年A組とのことだった。

のだが・・・

美琴「あれ、アンタも同じクラスだったんだ」

上条「げっ、ビリビリ・・・」

ビリビリこと、御坂美琴も同じクラスだったらしい。

なんというか・・・

上条「・・・不幸だー」

美琴「アンタ、そんなに死にたいわけ？」

なんか御坂さんがビリビリ言い始めましたよ。

何コレ怖い。

とりあえず右手を構えて防御態勢をとろうとしていると、後ろから声が聞こえた。

風斬「席についてくださいーい」

おお！天からの救い！！

たったいま俺にとっての救世主と化したのは、このクラスの学級委員である風斬氷華だ。

落ちついてるし頭もいいし、学級委員には適任だと思う。

美琴「チツ・・・あとで覚えてなさいよ！」

・・・うん、どっかの放電ちゃんに比べれば、よっぽど適任だ。

そんなわけで席につく。

今年の担任は一体誰なんだろう。

そんな心の声に応えるかのように、教室の扉が開いた。

それと同時に、一人の生徒も立ち上がった。

あれは・・・一方通行だ。

急にどうしたんだろうか。

そう疑問に思っていた俺だが、その後の一方通行の言葉を聞いて、疑問はさらに深まる。

一方通行「木イイ原くウウウウウウン!？」

クラス中がきよんとする。

もちろん、俺もきよんとしている。

そんな中、教師と思しき人物がめんどくさそうに口を開いた。

木原「うるせえぞクソガキ、とつとと席につけ」

それにしても、あの先生と一方通行、何か関係があるんだろうか。

一方通行「ンだア？その思わせぶりな登場はア!!」

あの口のきき方からして、知り合い以上であることは間違いない。

木原「もう一度だけ言うぞー。席につけー」

もしかして、一方通行の父親だったり？

一方通行「ふっざけンじゃねエぞ!!」

いや、でも、名字が・・・あれ？一方通行の本名ってなんだ？

木原「うるせえつつつてんだよお!!」ドカツ!

1年も一緒に勉強してるのに、気にしたこともなかった・・・

一方通行「ぐはア!!」バタツ!

・・・考え事をしてるうちに、気が付けば一方通行が床に沈んでる。

何かあったのか？

しかし、意にも介さない様子で教師は話し始めた。

木原「そんなわけで、このクラスの担任になった木原数多だ」

木原「言うこと聞かねえクソガキは容赦なく指導するから、覚悟しろよー」

改めて、TKO状態の一方通行に視線を移す。

・・・この先生には絶対逆らわない、と心に誓った瞬間だった。

クラス分け（後書き）

なかなか面白そうなクラスだと思いませんか？

あ、そうそう、感想はバンバン書いてくれると嬉しいです。

休み時間（前書き）

なんてことはない休み時間の風景です。

休み時間

- 休み時間（一方通行） -

あの野郎オ・・・この学校に赴任して、いきなり俺のクラスの担任とは・・・

何かある。絶対に、何か仕組んでやがる。

垣根「おーおー、いい殴られっぷりだったなあ、一方通行（笑）」

垣根か。こいつと同じクラスとは、うざってエ。

一方通行「ただいまメルヘンワールドとの交信は許可されておりませエン」

一方通行「関東総合通信局に許可申請をしてから、もう一度お試しください」

垣根「謝るから、そんな冷たくしないでくれ・・・泣けてくる」

こんな奴が生徒会副会長とは、世も末だなア。

上条「一方通行！」

あア？三下も同じだったのか・・・まあ、別にいい。

一方通行「なんだア？」

垣根「ちよ、俺のときと反応が全然違う（泣）」

ホントにうるせえ野郎だ。

上条「さっき殴られたみたいだったけど、大丈夫か？」

一方通行「あ、あア、心配すんな」

上条「そつか。ならよかった」

なんか、ホツとしたような笑顔してやがる。

真っ先に心配してくれるたア、垣根とは大違いだな。

一方通行「……さすがヒーローだ」

上条「ん？なんか言ったか？」

一方通行「いや、こっちの話だア」

垣根「うわ、照れてんのかよ一方通行。キモいww」

一方通行「……」ピツ。キュイン……

垣根「悪かった。マジで悪かったから、無言でチョーカーのスイッチを入れるのはやめてくれ」

一方通行「次ふざけたことぬかしたら、垣／根にすんぞ」

[illegible]

「！！！！」ギューン！！

大声と共にビームが飛ンできやがった。

当然反射できるわけだが、一体何考えてやがんだア？

一方通行「なんだ、むぎのんか」キーン

麦野「誰がむぎのんだ！誰が！」

一方通行「おまえだよ」

上条「おまえだな」

垣根「おまえだろ」

・・・なんか、俺達3人ってチームワーク抜群じゃねエか？

麦野「・・・おまえら3人、ぶ・ち・こ・ろ・し・か・く・て・い・ね」

いちいち区切るなよ。

読みづれエ。

一方通行「ベクトル変換できますけどオ」

垣根「未元物質作れますけど」

上条「能力打ち消せますけど」

麦野「・・・勝てる気がしない」orz

・・・なんか、俺達3人って最強じゃねエ？

一方通行「くだらねエ喧嘩うつてねエで、とつとと席つけ」

麦野「覚えてろよ・・・」

一方通行「なんか言ったかア？」ピツ。キュイン・・・

麦野「何も言ってますんごめんなさい」ガクブル

はア・・・俺って、こんなんでいいのかア？

休み時間（後書き）

いやゝ、実にほのぼのした休み時間ですね。
なんていうか・・・ある意味楽しそうです。

放課後（前書き）

学生といえば、放課後からが本番と言っても過言ではありません。
なんの本番かって？
知りませんよ、そんなこと。

放課後

- 放課後（垣根帝督） -

上条「おい、帰りにゲーセンにでも寄っていかないか？」

帰りの会が終わり、席を立ちあがった俺は背後から唐突に話しかけられた。

後ろを向くと、ツンツン頭と同級生が立っている。

上条当麻。

何故か意気投合して、今では俺の親友の一人だ。

垣根「んじゃ、一方通行も誘うか」

そう言つて俺は一方通行の方を向き・・・

一方通行「・・・」ジー

真紅の瞳と目が合った。

な、なんでこっち睨んでんだよ。

なんか身の危険を感じるじゃねえか。

垣根「あ、一方通行、おまえもゲーセン行くか？」

俺と上条の親友である一方通行が、一瞬だけ嬉しそうな表情をしたのを俺は見逃さなかった。

一方通行「しょうがねエな。付き合ってやらア」

垣根「・・・ツンデレが」ボソッ

一方通行「・・・」ドカッ

俺は思わず腹を抱えてうずくまる。

今のベクトルパンチの威力は、マジで洒落にならねえ・・・

この野郎・・・

一方通行「涙目でこっち見ンな。気持ち悪い」

そしてこの言われようである。

冗談抜きにイジメじゃないだろうか。

上条「ハハハ。ほら、2人とも、そろそろ行くぞー」

上条に促され、教室を後にする。

どうでもいいけど、校内一のツンデレと有名な御坂が物陰から見てるが、気付いているんだろうか。

上条「ふんふふーん（汗）」

あ、気付いてるな。

めっちゃ汗かいてるし。

気を紛らわすために鼻歌まで歌ってるし。

まあ、親友の命に関わりそうだからスルーしておくでしょう、ウン。

ちなみにその数分後に上条が電撃と共に目の前から消え去り、俺たちは2人でゲーセンに行くことになるのだが、それはまた別の話だ。

・・・電撃がちょっと当たった。

痛かった（泣）

Game center

一方「覚悟はできてンだろうなア、メルヘンくウン？」

垣根「そっちこそ、ビビってんじゃねえのか？ロリコン野郎」

一方「おもしれェ！この俺を挑発するとはなア。爆笑必至の死体にしてヤンよ、三下ア！！」

垣根「てめえこそ、愉快的死体になり果てやがれ一方通行！！」

その刹那、2人は同時に動き始めた。

白髪の少年は首筋のチョーカーのスイッチを入れ、茶髪の少年は純

白の翼を広げる。

この2人は、それぞれ軍隊を楽に壊滅させられるほどの能力を有している。

その2人が、互いの能力を開放したのだ。

これはただことではない。

もはや、戦争と言っても過言ではないだろう。

・・・ここが、ゲームセンターでなければ。

垣根「どうした一方通行！まだパックの残像が見えてるぜ！？」

一方「てめエこそ、ゴール付近の未元物質によるシールドが弱いんじゃないエかア！？」

彼らが何をやっているのかというと・・・

見物人A「お、おい、さっきから白髪が打ってるパックが全然視認できねえぞ・・・」

見物人B「見るよ。茶髪の方なんて、翼でパックを打ち返してるぜ・・・」

見物人C「これはホントにホッケーなのか・・・？」

そう、これはゲームセンターでおなじみのエアホッケーである。

もっとも、摩擦でパックが溶け始めるような状況でホットケーと呼べるのかは疑問だが。

一方「チツ、このままじゃ埒があかねエ……」

垣根「なんとか、決定打をうたなければ……」

その時、2人はそれぞれの必殺技を思いついた。

しかし、アクションにでたのは一方通行の方だった。

一方「これで終わりだ、三下アアアアアアアアアア！……！！！」

一方通行は地球の自転エネルギーを使い、パックを弾き飛ばす。

さすがの垣根帝督もこれを防いでる暇はなかった。

垣根「反則だろおおおおおおお！！！！！！！！！！」

ゴールを軽く突き抜けたパツクは、ギリギリで回避運動をした垣根の頭上を猛スピードで飛んでいく。

その後のゲームセンターは、さながら終戦直後の戦場のようだった。

ここまでしておいて、学校に呼び出しされないはずもなく……

アックア「貴様らには罰を与えるのである」

垣根、一方「と、言いますと……?」

アックア「垣根帝督は学校中の掃除、一方通行はグラウンド30周である」

一方（なんだ、その程度か・・・）

垣根（そのくらいなら、未元物質を使えばすぐに・・・）

アックア「もちろん、能力を使用することは許さん」

垣根「ノ才才才才才才才才才才！！！！！！！！」

一方「h j ふ お う い s d h め あ g n g q f p h d w q ! ! ! ! ! ! ! ! !」

翌日、グラウンドの中央とと掃除用具入れの前で倒れている生徒が発見されたらしい。

生徒指導のアックア先生曰く、

「2人ともこっそり能力を使っていたので、ぶん殴ったらピクリとも動かなくなったのである」

とのいふである。

これ以降、「アツクア先生最凶伝説」が出来上がったらしいが、アツクア先生は知る由もない。

放課後（後書き）

ほら、やっぱり放課後からが本番なんですよ。
というわけで、感想書いてくれると嬉しいんだよ！

学園祭 - 討論 - (前書き)

高校といえば、やっぱり学園祭です！
いや、青春ですね。

え、授業？何ソレ、美味しいの？

学園祭 - 討論 -

学園祭 - 討論 - （上条当麻）

浜面「おい上条、今日の1時間目ってなんだっけ？」

教室に入るなり俺に声をかけたのは、俺の友人、浜面仕上だ。

上条「たしか、LHRじゃなかったっけか？」

浜面「なにい！？Long Home Roomだとお！？」

上条「・・・無駄に発音上手いな、おまえ」

彼は、一方通行や御坂など濃い友人の多い俺にとって、数少ない普通の友人だ。

強いて言うなら・・・

麦野「はーまづらぁ、紅茶買ってきてくれない？」

浜面「また雑用かよ！！」

クラスメイトの麦野沈利に雑用係として扱われている。

1年生の頃からこの調子で、学校一主従関係がはっきりしたコンビだ。

浜面「上条お、どうにかしてくれよぉ」

上条「いいじゃねえか。愛されてる証拠だぞ?」

浜面「どこがだよ!」

上条「ホント、おまえは鈍感だなあw」

浜面「……………おまえにだけは言われたくない」

なんか、極悪非道な人間に「悪さすんなよ」って言われたー、みたいな顔してらっしゃいますよ!?

なんで!?

俺は恋愛フラグには敏感な男だぞ!?

上条「つて、なんで結標まで哀れみの目でこっちを見るの!?!」

「世も末だ」みたいな顔でこちらを見つめているのは、結標淡希。

……シヨタコンだ。

結標「シヨタコンじゃないわよ!」

上条「なんで地の文がわかるんだよ!!」

こうして、結標とのトークバトルが開戦した。

予想以上に白熱し、もはや結標の言葉しか耳に入らない。

始業のチャイムすらも・・・

木原「いつまでしゃべってやがんだ！このスクラップ野郎！！」ドカッ！

上条「ぐはあ！？」

気がつくと、目の前にはいつもの白衣を身にまとった我らが担任、木原先生が立っていた。

俺の鳩尾に拳をたたきこんだ状態で。

木原「とつとと席につきやがれ、廃人が」

粉々に砕け散りそうになる自分の心を必死に抑えて、俺は席につく。

斜め前の席からは、結標がニヤニヤしながらこちらを見つめている。

あの野郎・・・

木原「そんなわけで、もうすぐ学園祭だ。我がクラスも、クラス展の内容を決めなきゃならん」

木原「・・・まあ、仕切るのはめんどくせえから、適当に話し合っ
て決めやがれ」

すると、木原先生は椅子に座るなり夢の世界へトリップしてしまった。

なんとも自由奔放な先生だ。

それにしても、学園祭の存在をすっかり忘れていた。

この学校の学園祭は特殊なスタイルで、1日目に生徒の展示、2日目は教師による展示だ。

生徒の展示もおもしろいが、それ以上に教師による展示はとても見応えがある。

まあ、危険なものもあつたりするが。

昨年の、家庭科のテッラ先生による「お料理教室」では、調子に乗ったテッラ先生が小麦粉をビュンビュン飛ばしまくって、何人が怪我人が出た。

「せっかくの学園祭なのに、仕事を増やさないでほしいねえ」とは、冥土返し先生の言葉だ。

それはさておき、まずはクラス展を決めなければならない。

結標「仮面ライダーの着ぐるみショーなんてどうかしら」

つと、さっそく結標がなんか提案した・・・

一方「小さな男の子目当てじゃねエか、シヨタコンクソ女がア」

直後に一方通行にバツサリ切られていた。

すっかり意気消沈した結標は机に突っ伏してしまっている。

可哀想・・・じゃないな、ウン。

そこから、討論はどんどん加速していく。

麦野「世界の鮭弁博覧会とか」

垣根「てめえは海で鮭と一緒に泳いでろ」

美琴「ゲコ太」

上条「分かったからおとなしくしてような？」

一方「それより、プリキュ・・・」

上条・垣根「黙ってろ、第一位」

一方「・・・すみませんでした」

浜面「バニー・・・」

ガラッ

滝壺「はまづら、ちょっときて」

浜面「え、ちょ、たきつばおおおおおおお！？」

ボタン

浜面仕上がログアウトしました

今のは滝壺理后。

B組の生徒で、浜面と付き合ってるらしいが、詳しいことは知らない。

まあ、そんなことはどうでもいい。

上条「残ってるのは俺と垣根か・・・」

垣根「いや待て、まだラストホープが残ってる」

上条「そうか！風斬！おまえの意見は？」

俺たちは最後の希望を、彼女に託す。

彼女なら・・・学級委員で優等生な彼女なら・・・！

すると、風斬は俺たちの期待に応えるように口を開いた。

風斬「なんでもいいですよ^^」

上条・垣根「（。。。）」

すっかりやる気を失った俺たちは、無難にお化け屋敷に決めた。

みんなで様々な能力を使用して怖がらせるといふ、ちょっと変わったお化け屋敷だ。

そうと決まれば、あとは準備だ。

上条「よし、いっちょやってやるか！」

垣根「おう！見たこともないようなお化け屋敷にしてやるっぜ！」

廃人だらけの教室で、俺たちは拳を掲げる。

必ず成功させるという、強い意志をこめて！

・・・ところで、浜面が帰ってこないけど大丈夫かな・・・？

学園祭 - 討論 - (後書き)

お化け屋敷というチヨイスは、あまり面白くないですよね。
書きながら思いました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5488s/>

とある学園の日常生活

2011年10月9日00時07分発行